

2008年(平成20) 2月

カルメル  
**霊性センターニュース**



アルプス オニオンドーム

**229号**

# DE IMITATIONE CHRISTI

## キリストにならう

——バルバロ訳——

### 第一卷

#### 第三章

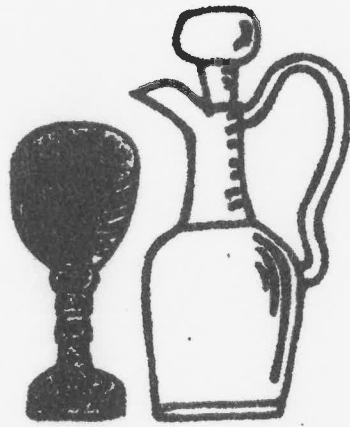
##### 1. むだな好奇心

象徴や過ぎ去る言葉によるのではなく、真理自身から、ありのままに教えられる者は幸せである。私たちの理性と感覚とは、しばしば私たちをあざむき、またその限られた能力によって、しばしば見誤る。知らなかったと言えば、審判の日にさえとがめられないような、ひそかな、わかりにくい事柄について、大いに議論しあっても、それが何の益になるであろう？ 利益になること、必要なことをおろそかにして、珍奇で有害なことを好んで扱うのは、狂気の沙汰である。それは「目をもちながら見ないのと等しい！」(エレミア 5・21)。

##### 2. 内的な師

哲学者の絶えざる論争が、私たちに何のかかわりがあるであろう？ 永遠のみことばの声を聴く者は、人間のさまざまな学説を必要としない。その唯一のみことばからすべてが出るのであり、そしてすべては、みことばを私たちに語っている。それは私たちの内で語られるみなもとであって(ヨハネ 1・3、8・25 参照)、それがなければ、正しく理解することも判断することもできないのである。すべてにおいてただ神のみを見て、すべてを神に帰し、すべてを神において見る者は、心が定まり、安らかに神にとどまり得るのである。ああ真理である神よ、絶えることのない愛において私をあなたとひとつのものにさせてください！ さまざまなことを読み、聴くことは、しばしば私を疲れさせる。ただあなたの内に、私の望むこと、渴望することがある。すべての学者は沈黙しなさい。あなたのみ前にあつては、いかなる被造物も口を閉じなさい。あなたのみ私にお話ください。

心の泉



泉の心



幼きイエスのマリー・エウジェンヌ神父 ocd

—現代の十字架の聖ヨハネ—

帰天40周年にあたって (14)



神は

永遠の愛  
常に広がろうとする善

もしひとときでも  
停滞するなら  
もはや愛とは言えません

—幼きイエスのマリー・エウジェンヌ ocd

今年は四旬節がはやく、二月六日は灰の水曜日です。この日全世界の隅々で「回心して福音を信じなさい」、または「あなたはちりであり、ちりに帰っていくのです」が響き渡ります。

ちりであり、ちりに戻っていくはかないものに、神はご自身の愛の息吹を吹き込まれました。にもかかわらず愛の源から離れていく反逆児・・・毎年灰の水曜日わたしたちはこの出発点に立ち戻り、回心をうながされます。「神はわたしたちが罪人であったとき御子を遣わされた」よきおとずれ福音をさらに深く信じるよう招かれるのです。

神は永遠の愛である、ということは常に「広がろうとする善」「自らを注ぎだす善」なのだ。とマリー・エウジェンヌ神父は強調していました。愛である神はご自分を伝え、与えつくし、広がるよう捜し求めておられる、これが神の本姓なのだ。

愛とは常に広がろうとする善であり、ひとときでも停滞するなら、それはもはや愛とは言えません。とどまる愛はエゴイズムと変わります。神は常に御子を生みだし、御父と御子から絶えず聖霊が発出されます。それゆえにこそ神は永遠の愛なのです。ですから、わたしたちに与えられた愛は、わたしたちのうちだけにとどまることはありません。その源へと戻る必要があり、自分自身をひたすら注ぎこむ独自の動きをつづけます

—『わたしは神をみたい』edition du Carmel、邦訳なし

四旬節中この真理を心にさらに深く刻み、日常の些細な事柄において実践し真に「福音を信じる」ものとなっていくことができますように。

伊徒 信子

ノートルダム・ド・ヴィ

## 『必要なことは、ただ一つだけ』(32)

ルドルフ・デ・スーザ OCD (カルメル会)

### 8. 「体のともし火は目である」(続き)

目は、言葉によらないきわめて多様なメッセージを伝え、このメッセージは、私たちのコミュニケーション—言葉によるものであれよらないものであれ—を支え、強めてくれます。いくつかの仕方では、目は人との関係を結ぶために大きな役割を果たしています。私たちは、他者に対する関心や尊敬に応じた形で、彼らとの絆を發展させることができます。すべては、私たちの内的な傾向が、私たちの目によってどのように関連づけられているかによります。目の接触は、私たちの自信や力を反映します。またそれは、私たちの人格の一部である多くの感情的な要素、たとえば驚き、喜び、満足、悲しみ、ショック、失望、怒り、好奇心、あたたかさ、尊敬、力、誇りといったものを表現しているのです。私たちが人々や物と接触する時、目が私たちのためにしてくれる無数のことに対して、私たちは驚嘆することでしょう。

#### 神を見ることとは

或る時、モーセは、「どうか、あなたの栄光をお示してください」と主に言いました。その時、神は「わたしはあなたの前にすべてのわたしの善い賜物を通らせ、あなたの前に主という名を宣言する。わたしは恵もうとする者を恵み、憐れもうとする者を憐れむ」と言われました。それから主はこう続けました。「あなたはわたしの顔を見ることはできない。人はわたしを見て、なお生きていることはできないからである」。そしてこう付け加えます。「見よ、一つの場所がわたしの傍らにある。あなたはその岩のそばに立ちなさい。わが栄光が通り過ぎるとき、わたしはあなたをその岩の裂け目に入れ、わたしが通り過ぎるまで、わたしの手であなたを覆う。わたしが手を離すとき、あなたはわたしの後ろを見るが、わたしの顔は見えない」(出33・18～23)。聖書は、はっきりと、また劇的に、人間が神を見て生きていることはできないという事実を語っています。神は一つの物とか対象ではありません。神は霊です。神は全宇宙を創造した大いなる霊です。それゆえ、モーセは「神を仰ぎ見ることが恐ろしくて顔を覆った」(出3・6)のです。エリアも、ホレブ山で、神が通り過ぎた時、外套で顔を覆いました(列上19・13)

太陽を見つめることは、わずか一二秒秒でも難しいと思います。しかし太陽は神の創造した物の中でほんの小さなものでしかないのです。そうであるならば、私たちが、裸眼で神を見、観想することがどうしてできるでしょう。私たちは、無数の星を見るために望遠鏡を、細胞や組織の世界を見るために顕微鏡を必要とします。それなのに、どうして私たちは裸眼で神を見ることができると思うのでしょうか。私たちの目は、神の限りない創造の業を裸眼で見るとはあまりにも制限されているのです。天文学者は、銀河には、太陽と地球と両者の間の距離を包含できるほど巨大な星がいくつもあると言っています。研究によれば、地球は直径が 12,450 キロメートルで、太陽の直径が 1,550,000 キロメートルです。地球と太陽の間の距離は、144,000,000 キロメートルです。けれども地球と太陽と両者の間の距離を包含できる星がいくつもあると知るとは、ほんとうにすごいことです。そうであるならば、宇宙の中にそのような驚嘆すべき物を創造した神を、どうして私たちは見ることができると考えるのでしょうか。私たちの制限されたとぼしい視力で見ることができるとは、神が被造物を創造した時、その中に残された神の足跡にすぎないのです。したがって、「神は私たちの内に生きている」

(1ヨハ4:12) ゆえに、私たちが心の中に神を見出すならば、被造物の中にその現存を見出すことはそれほど難しいことではないでしょう。

### 私たちの心に対するメッセージ

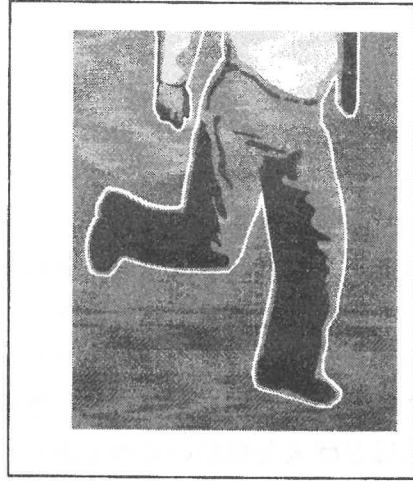
私たちは人生の中でたくさんものを見ます。子供時代から、私たちは、被造物の内に快いものを眺めることに楽しみを見出してきました。私たちの視力の問題は、私たちはすべてのものを意識的に心へもたらしることができないということです。祈りの秘密は、先入観や情緒や観念や投影や誇張なしに見ることの内にあります。あなたの欲求や野心や過去の記憶や未来の計画を捨てなさい。そうすれば、あなたは目の前の現実をはっきりと見ることができるようでしょう。これが、祈りと賛美と感謝なのです。視覚は、子供がしているように、見ているものをすべて味わうように導かれなくてはなりません。子供は何かを見て、驚く感覚を持っています。それゆえ、子供にとっては、すべてが魅力的なのです。あらかじめ考えられた先入観なしに物を見ることは、私たちの知識をふやし、驚きの感覚を増大します。視覚能力をふさわしく使うことによって、自然な観想へと私たちは導き入れられ、物や人の美しさに心を奪われ、高揚の体験をするのです。(続く)

九里 彰訳

ヘンリ・ナーウエンの

## 『旅路の糧』

(107)



### 多くの部分をもった一つの体

教会は一つの体です。パウロは、「私たちは、…皆一つの体となるために洗礼を受け、皆一つの霊をのませてもらったのです」(1コリ 12:13)と書いています。けれども、この一つの体は、多くの部分を持っています。パウロが言うように、「すべてが一つの部分になってしまったら、どこに体というものがあるでしょう」(1コリ 12:19)。だれもすべてとなることはできません。しばしば私たちは、体の一肢体に、他の肢体に属する仕事をするよう期待します。しかし、手は見ることはできませんし、目は聞くことはできないのです。

私たちは皆一緒になってこそキリストの体なのであり、私たち一人ひとは、全体の中で働く一部分なのです。私たちが体の中で、限界はあるにせよ、体の現実的な部分であることを感謝いたしましょう。

(1029)

### 私たちの霊的指導者

キリストの体としての教会は、多くの側面を持っています。教会は祈り、礼拝します。教会は、キリストの教えや癒しの言葉について語り、私たちが罪から清め、主の食卓へと招き、愛の契約の中で一つに結びつけ、奉仕のために派遣し、私たちが病気や死に直面する時、塗油によって聖別し、私たちが生きる意味や私たちを支える日々の糧を求める時、私たちに同伴してくれます。これらのすべての側面は、私たちが指導者として仰ぎ見る人々から、私たちにやってこないかもしれません。けれども、イエスが教会を通して私たちのもとへ来られることを単純に信じて生きるならば、私たちがほとんど期待していない場所や場面において、教会のこれらの奉仕を見出すことでしょう。

私たちが本当にイエスを愛するならば、イエスは、私たちがもっとも必要としているものを与えてくれる人々を、私たちに送ってくれるでしょう。そして彼らこそ、私たちの霊的な指導者なのです。

(1028)

くのり  
九里 彰訳



## 年 間 第 四 主 日 (A)

幸いになるための心の持ち方 (マタイ 5:1-12)

イエスは群集を見て、山に登られた、とマタイは書いています。モーゼが神からの掟を受け取りそれを人々に贈るために山に登ったように、イエスは山に登られました。イエスも神の新しい掟を人々に贈ろうとしておられました。その掟はモーゼの古い掟を遥かに超えたものでした。イエスは幸福への新しい生き方を教えてくださいます。至福の生活、神の祝福と恵みに満ちた生活を提唱し、この世では全く反対に見える事柄の尊さを教え続けておられます。貧困、不平を言わない従順さ、嘆き、平和のための苦闘、苦しみ、敵のあざけりに耐えること、などです。これは確かに、幸福への道であるとは、私たちが普通には考えないことです。

私たちが住んでいるこの世界にはたくさん不幸があります。新聞やテレビの報道はよいニュースより悪いニュースの方がずっと多い毎日です。私たちはまわりの世界で起きている悲惨な事件のことを聞き続けています — 中東の集結しない戦争、北東 (North East) で毎日のように殺されたり傷つけられたりしている人々、都市での爆弾テロ、焼かれた家々、追いたてられて難民となった家族、暴行された女性、飢えている子どもたち等々、これらの悪いニュースは人生に対しての不安、希望のない否定的な思いへと私たちを誘導します。

この様な時に、イエスは次のようなことを私たちに話してくださいます。 “声を大にして言えるようなよいニュースを見出すことが難しくても、あなたのまわりをよくご覧なさい。あなたのまわりで起きているよいことをご覧なさい。そこには幸せがあります。希望があります。天の国は多くの人々によってではなく、ほんの極僅かの人々によって自然に、静かに築かれています。心の平和な人々を、心のやさしい人々を、社交性に富んだ気さくな人々を、自分の所有物に固執せずそれを他者のために用いる人々を、ご覧なさい。平和のために働く人々、情け深い人々、正義を追求し、完全さのために努力している人々を、ご覧なさい。これらの人々の行いのおかげで、希望があり、幸せがあります。”

イエスが私たちに、心の貧しい者であるようにと言われるのは、神への全き信頼と委託によって得られる幸せに、私たちを招くためです。神が私と共に居てくださいるとき、私はこの世で不足のない最も幸せな人間となり、多くの自由さを経験します。同じ様に、イエスは、その他の幸いになるための心の持ち方についても話してくださいます。イエスのおことばに従うことによって、私たちは神の国を経験します。神の国の至福はこの世の人生に於いての幸いになるための心の持ち方にその秘訣があります。

(Sr. Paulina)

四旬節第一主日A マタイ4, 1-11

「さて、イエスは悪魔から誘惑を受けるため、『霊』に導かれて荒れ野に行かれた」(マタイ4, 1)。

四旬節第一主日の「福音」、つまり、喜びの知らせは、この言葉で始まっています。ですから、不思議に思われるかもしれませんが、悪魔からの誘惑も、イエスにおいては喜びの知らせに包まれていると言わなければならないのです。むしろ、誘惑は、真実の喜びを発見する機会となっているというべきかも知れませんが。また、喜びは、自分が本当の自分になってゆくことを確認する時、おのずと湧き上がってくるものではないでしょうか。

「誘惑は、人間の特異性、尊厳の現われ」と、ある人が言っています。確かに、人間以外の動物にとっては、誘惑というものはないでしょう。動物を導いてゆくものは、すでにプログラミングされ自由度のない欲求を満たす本能だけでしょう。本能には、選択の余地はありません、それで、誘惑とか迷い、試みが入る余地もないのです。これに対して、人間は、日々の小さな、また大きな選択を通して自分自身を建設してゆく、自分自身になってゆく。選択の自由があるのです。また、自由な人間であることは、すでに与えられたものというよりは、日々獲得してゆくものではないでしょうか。使徒パウロは書いています。「兄弟たち、あなたがたは、自由を得るために召し出されたのです。ただ、この自由を、肉に罪を犯させる機会とせず、愛によって互いに仕えなさい」(ガラテヤ5, 13)。自己の欲望のままに、自分だけを視野に入れて生きるようにと誘ってくるどのような状況、環境にあっても、他者に開かれた愛によって仕える心で生きてゆく、ここに、人間の建設、自由な人間の尊厳があるのでしょうか。

「神の子なら、これらの石がパンになるように命じたらどうだ」との試みから始まる誘惑すべてを退けることを通して、動物のように本能に拘束されたものではなく、また自己中心ではなく、真実な人間であり、また、真実な神の子であることを、イエスは顕してゆかれます。「神の子なら、自分を救ってみろ。そして十字架から降りてこい」とのののしり、むしろ、誘惑の罵声の中で、イエスは十字架に留まり、死んでゆくことを選ばれる。そして、復活の朝の光の中に新しい人として進んでゆかれるのです。わたしたちも御自分に従って新しい人となるように招きながら。

ルカ 渡辺幹夫

\*\*\*\*\* みことばのひびき \*\*\*\*\*

## 四旬節第2主日（A）

マタイ17：1～9

四旬節は、キリストを知り、キリストに従い、より十分にキリストを生きる  
ときです。本日の聖書の箇所によれば、四旬節は、「これはわたしの愛する子、  
これに聞け」という神の声を聞くときです。四旬節は、第一朗読に見られる7  
5歳のアブラハムのように、神の召し出しに応えるときです。四旬節は、第二  
朗読で聖パウロが語っている「聖なる生活」をもっと心から生きるときです。

本日の福音、即ち山上でのイエスの変容は、先週の福音、即ちイエスの荒野  
での試みと対になっています。毎年、試みの箇所は四旬節の第1主日に、ご  
変容は第2主日に読まれます。この二つの福音は、イエスの真の本質を表すた  
めに、またイエスの弟子たちがキリストのイメージに変えられているように私  
たちの真の本質を表すために、一緒に読まれます。

先週の日曜日に私たちは、私たちもまたイエスのように貧しく、空腹で、試  
みを受けるということを知りました。イエスの先週の貧しさは、本日の神の現  
存の輝きに依っています。神の声は「あなたは私の愛する子」と言っています。  
本日私たちは、イエスのように私たちもまた選ばれ、愛されていることを思い  
出させられます。イエスの顔に輝いた栄光は私たちの顔にも輝くことを、また  
この四旬節の旅は私たちがキリストに似たものとなる旅であることを思い出さ  
せます。本日の変容の体験は、イエスを深く慰めるものです。これから起こる  
苦難の時に對してイエスを準備しています。この体験はペトロ、ヤコブ、ヨハ  
ネにとっても同様に慰めとなりました。彼らは「私どもがここにいるのは、す  
ばらしいことです」と言っています。この福音のメッセージは、私たちにとっ  
ても慰めの体験となります。

慰めは、私たちの心の中での神の現存と神の愛の暖かい体験です。私たちは  
皆このことをいつでも体験するわけではありませんが、少なくともときどきは  
体験します。これは私たちを感動させる神の現存の体験です、これは多分私た  
ちに涙を流させるような体験です。神の慰めの体験は、私たちにとって大変重  
要です、苦悩や困難のときに励まし、希望を与えてくれるものだからです。特  
に神がはるか遠くに見え、先に続く道が困難に見えるときには最も大切です。

私たちの日々の生活のタボール山の体験、神の慰めの体験に注意を払いましょ  
う、そして神の慰めで励まして頂きましょう。この四旬節中に、「主よ、キリ  
ストの新しい生命を私たちに与える大きな出来事を思い出すとき、私たちの中  
にあなたの子のイメージを完全にもたらしてくださいように」と祈ります。

(Sr. Paulina)

四旬節第三主日 A ヨハネ 4, 5-15. 19b-26. 39a. 40-42

「わたしたちが信じるのは、もうあなたが話してくれたからではない。わたしたちは自分で聞いて、この方が本当に世の救い主であると分かったからです」(ヨハネ 4, 42)。

サマリアの女の証言は、近隣の村の住民たちにとってイエスを「世の救い主」として認識することを促進しました。今は、イエスと人格的に邂逅するのは、彼ら自身です。真実な宣教者の特徴の一つとは、自分自身の霊的体験から、兄弟たちにキリストを告知するようにと促す刺激が来ることです。サマリアの女は、まず、自分自身がイエスとの人格的体験をしたのです。

この婦人のイエスとの出会いが真摯なものであったことは、一つには彼女自身がイエスに与えた称号の段階的發展によって、第二には、イエスによって指摘、気付かされる自分自身の真実な実像を受け入れてゆく霊的深化の過程から見えてきます。最初、敵意と蔑視の態度が感じられる「ユダヤ人のあなた」とイエスを規定しているところから、未だ厳密な意味ではないとしても十分に尊敬の念を感じ取らせる「主よ」との呼びかけに移り、次にサマリア人にとっても大変名誉ある称号「預言者」との敬称を経て、イエスを「メシア」と認知することに至っています。この歩みは、真摯な自己認識の歩みと平行しています。自分自身の見たくない実像、神との真剣な出会いから逃亡し、隣人たちとの交わりからも断絶、孤立した罪人である自分の姿に直面させられ、自分としてはこの直視から逃れようとしていた。しかし、イエスは、恵みによって彼女を捕らえきり、思ってもいなかった解放に導かれてゆく。自分の生活にイエスが入ってくるままにし、また、イエスによって新しい被造物に変えられるままになっていた。彼女は、自身の「過ぎ越し」、死から生命への過ぎ越しを生きたのです。自分自身にのみ閉じこもった色彩のない、生氣のない生活から、自己をイエスに開き、また、隣人のために生きる活性化された生活へと過ぎ越したのです。

この婦人によって、サマリア人たちは、イエスを「世の救い主」との宣言に導かれています。この歩みは、真摯なイエスとの出会いによって他の人たちをも真実なイエスとの出会いに導くものに変えられて行く歩みの一つのモデルです。四旬節を生きるわたしたちにとってのモデルです。

ルカ 渡辺幹夫

## 十字架の聖ヨハネ こぼれ話(11)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

### 小魚(3)

すぐに人は、魚たちは話せないと言います。でも私は、彼らは話せないのではないと思います。実のところは、私たちが聴覚障害者であるということです。十字架の聖ヨハネのような聖人たちは、きわめて繊細な聴覚を持っていて、話せない被造物の声まで聴き取るのです。

聖ヨハネも、聖テレジアと同じ熱望を生きました。聖人も、聖女同様、当時はやりの次のリフレインを使って、詩を作りました。

私は 私の内に生きないで、生き  
そうして 望んでいる  
死なないゆえに死ぬことを

第四連では、次のように魚たちについて語っています。

水を離れた魚さえ  
慰めが ないわけではない  
なぜなら 耐えている死の中に  
ついには 死が もたらされるのだから  
どんな死が 等しいであろうか  
私のあわれな生に？  
生きれば生きるほど それだけ死ぬのだから

聖女は、「何と悲しいものであろうか、私の主よ。あなたなしに生きることは」という他の詩の中で、魚一般ではなく、鯉、すなわち、「背の辺りは黒っぽく、お腹の辺りは白っぽい川魚」について語りながら、同様のことを言っています。

鯉は 捕まえられる  
釣り針にだまされて  
死によって迎えるのは  
苦しみの終わり

(続)

## …ケリトの水にうるあされて…

カルメルの聖人たちの祈り

### 19. 幼いイエスの聖テレーズ (1873-1897) — その2

テレーズ・マルタンは、フランスのアランソンで、大変愛情深く敬虔な家庭に生まれた。4人の姉のうち3人は、リジュー・カルメル会における修道生活においても姉妹となった。テレーズは5歳で母親を亡くしており、非常に感じやすい子どもであった。状況は悪くなる一方のように思われたが、重病の苦しみの中、聖母に助けを願い求め、枕元にあった聖母像が「うっとりするほど美しいほほえみ」を浮かべられるのを見、そのときから健康を回復した。

1888年、15才でカルメル会に入会。正式な修道名は「幼いイエスと尊き面影のテレーズ」であった。テレーズは聖人になりたいと望んでいた。他の聖人たちのように偉大なことはできないと知っていたが、それでも預言者、司祭、宣教師、使徒になって五大陸を駆けめぐりたかったのである。ある日、彼女は自分の使命が教会の心臓の中で愛となることであることに気がつく。彼女が見出した霊的幼子の小さな道には、何でもないような小さなことをイエスに捧げることが含まれていた。彼女は自分自身の弱さそのものをイエスに捧げ、他人に気付かれることも評価されることもない小さな事柄を行う機会を探し、静かに謙遜に奉仕した。テレーズは「神のいつくしみの愛」に身を捧げた。自分が神のあわれみに頼らなければならないこと、神のあわれみは神の正義に勝るものであることを信じていたのである。彼女は神の腕の中にいる子どものように、完全に自分を神に委ねきっていた。結核が重くなってからも、長上への従順によって、自叙伝を書き記した。最も深い信仰の暗夜を体験しながらも、喜びをもって苦しみを受け、1897年に帰天。1925年列聖。1927年、聖フランシスコ・ザビエルと並ぶ宣教の保護者に上げられ、1997年、教会博士の称号を受けた。



幼いイエスの聖テレーズ

— 祈り —

優しいマリアさま、私はあなたよりも幸福であるように思います。私は母としてあなたをいただいておりますが、あなたには、愛すべき聖母がありません。十字架上のイエスさまは、私たちにあなたを母として与えてくださいました。ですから私たちはあなたよりも豊かなのです。私たちはイエスを所有し、あなたもまた私たちのものなのですから。

おお、イエスさま！ あなたが私の行いの偉大さよりも、その行いにこめられた愛のほうをご覧になることを、私はよく知っています。私がいつも忠実であるわけではないことは真実です。でも私は勇気を失うことはありません。私はあなたを喜ばせるためのあらゆる機会を利用したいと望んでいます。

おお、イエスさま、私たちの悲しみがあなたのものであるならば、私たちの喜びもまたあなたのものです。靈魂を勝ち得、彼らをあなたへと高めるためには、自己中心的な幸福に浸ることなく、あなたが私たちの生活の小道に誘ってくださる最もやさやかな喜びさえもあなたにお捧げするだけで十分なのです。

誓願の日の祈り（1890年9月8日）

おお、イエスさま、神である私の花婿！ どうか私が第二の洗礼の衣を決して失うことがないようにしてください。どんな小さな過ちも知りながら犯すことがないように、その前に私を引き取ってください。あなただけを求め、あなただけを見だし、造られたものを無と見なし、造られたものから無と見なされますように。イエスさま、あなたがすべてでいらしてください！ 地上のことが私の靈魂を乱すことが決してありませんように。どんなことも私の平和を乱しませんように。イエスさま、あなたに平和だけをお願いいたします。そして愛も。あなた以外に限界を持たない無限の愛、もはや私ではなく、私のイエスさま、あなたご自身である愛をください。イエスさま、あなたのために殉教の死を遂げることができすように。心か体の殉教を、あるいはむしろそのどちらをも。誓願をこの上なく完全に果たす恵みをお与えください。そしてあなたの眞の花嫁がどうあるべきかを悟らせてください。決して共同体の重荷となることなく、誰にもかまわれることがありませんように。イエスさま、あなたの小さな砂の一粒のように忘れられ、足もとに踏み砕かれたものと見なされますように。あなたのみ目が私のうちに完全に成就し、あなたが私のために準備して下さったところにまで達することができすように……。

イエスさま、私に多くの靈魂を救わせてください。今日は、誰一人地獄に落ちることなく、煉獄のすべての靈魂が救われますように……。イエスさま、言うべきでないことを言ったのでしたら、どうかおゆるしください。私はあなたを喜ばせ、あなたをお慰めすることしか望んでいないのです。

\* \* \* \* \*

この記事は、跣足カルメル在俗者会員ベニー・ヒッキー氏が編集された Drink of the Stream: Prayers of Carmelites (Ignatius Press, San Francisco, U.S.A., URL <http://www.ignatius.com>) の中から、出版社の許可を得て、抜粋・邦訳したものです。

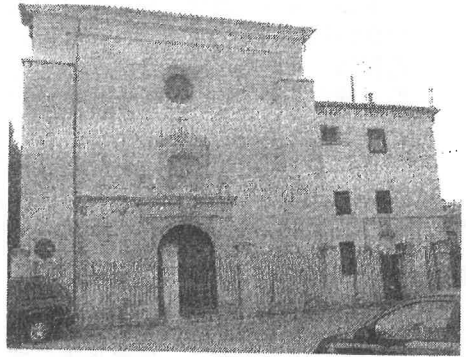
(注) タイトル中の「ケリトの水」とは、主が預言者エリヤに言われた、「ここを去り、東に向かい、ヨルダンの東にあるケリトの川のほとりに身を隠せ。その川の水を飲むがよい。わたしは鳥に命じて、そこであなたを養わせる(1列17:3-4)」ということばに由来しています。

(養身カルメル会訳・編)

## スペイン紀行（2008年）No.7

（ブルゴス）

スペインの首都、マドリッドの北 250km ぐらいのところに中世スペインの城下町ブルゴスがある。10 世紀半ばにこの地方は独立し、カスティーリャ伯領の首都になる。11 世紀には、フェルナンドス 1 世のもとカスティーリャ王国に発展し、この時代、ブルゴスは最盛期を迎える。この町の中心は、なんとといってもゴシック建築のカテドラルであろう。

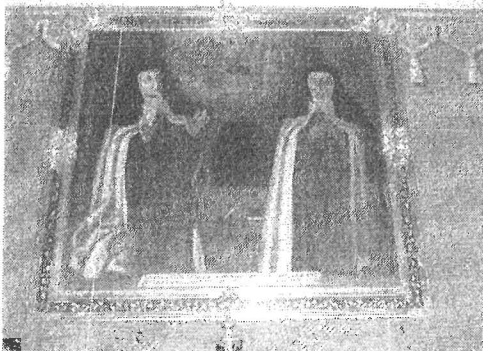


さて、ここにもアヴィラの聖テレジアは、修道院を創立している。彼女の生涯の最後の創立となる。この創立に、アヴィラの最初の修道院創立の時にお世話になったドン・アルバロ・メンドザ司教が深く関わっている。メンドザ司教は、アヴィラの司教座からブルゴスの近くのパレンシアの司教座に移動になり、この司教とブルゴスの大司教ドン・クリストフォロ・ベラとは友達でもあった。また、この大司教は、テレジアの遠い親戚でもあった。メンドザ司教はブルゴスの大司教にカルメル修道院の許可を獲得した。これは 1580 年のことだった。当時、パレンシアとブルゴスの創立が問題になっていたが、パレンシアには 1580 年 12 月 29 日に司教の要請により創立したが、ブルゴスは 2 年遅れることになる。この当時、テレジアは大病を患っている。そのため、創立に嫌気が伴ったようだ。創立のためらいにキリスト内在的なお叱りを受けたテレジアは、1580 年以降、パレンシア、ソリア（ブルゴスの東約 100 km にある町。1581 年 6 月 3 日創立）、ブルゴスと創立することになる。しかし、テレジアの健康状態から見るとブルゴスの創立は容易ではなかった。1582 年 1 月 26 日にブルゴスにグラシアン神父と共に到着したテレジアは、町との交渉に入り、修道院の家も買うことになる。こ

のときの助けてくれたカタリナ・デ・ドロサは自分の娘 4 人をカルメル修道院に入れることになる。そして、1582 年 4 月 18 日にブルゴスに創立することになる。

ここの修道院はナポレオンの率いるフランスの侵入の時、疎開している。しかし、また同じ場所に戻って現在もカルメリットたちが修道生活を続けている。

（Fr. 松田浩一 OCD）





さんせん  
孟母三遷

お告げの姉妹会 S r. 熊田 照子

中国の古文書、「列女伝」の中に、「孟母三遷」という有名な道德の話があります。孟子（BC 4～3 C頃）は、中国の戦国時代の儒教思想家として知られていますが、幼児時代はその賢母によって育てられ、成人しては諸子百家の一人として十数年に亘って“人間の生き方”につき、諸国を遊説して歩いたと言われていました。当時中国は戦国抗争の時代であり、諸侯は、有能の士を求めて「富国強兵」や「外交の策謀」に長じた人を集めていました。孟子はその依頼を受けた一人であり、15年程、諸国遊説をしたのですが、自説を採用されないために郷里に隠退してしまったのです。つまり諸侯の求めるものは、富国強兵や外交の策謀であったのに対し、孟子の説くところは王道としての道德政治で、あまりにも実状に遠く理想的に過ぎると考えられたからだったのです。それというのは、母親の教育が母の人生を賭けたもの だったとはいえ、人間性を逸脱した 極端に真面目な子育てだったからです。例えば①家が墓地の近くにある時は、子供は葬式の真似ばかりしてよくない。②市場の近くに引越せば、商売の真似ばかり。では③学校の近くに移動すれば、礼儀作法の真似をするから、それが一番よいのでは…… といった具合で3回も引越したのです。そのことを“孟母三遷”といい、それは、今日に至るまで有名な話になっています。

ではキリストの“生き方”は、どんなだったのでしょうか。当時のユダヤ社会に受け継がれていたユダヤ教は、“孟母三遷”的に規則に縛られたところが多々見られます。そんな世界に神の子キリストが生まれたわけです。神様は、ご自分の素性を始めから明かされたわけではありませんでした。それが上記の古代中国に起こったと同じく、ユダヤ社会に受け入れられなかったのは、当然といえば当然かも知れません。自分達が昔から受け継いできた固い信仰道德が、突然名乗り出た“神の子キリスト”の、伸縮自在の愛の教え、(愛とは広いもの)の前にモロに“give up”することは、常識的にも考えられないことですから。ですから反対者が出たのは当然のことでした。

私達は、それを過去のこととしてだけ見ることではないと思います。人間は純粹無垢の世界に生きることは出来ません。他人の穢れを見る前に、まず自分の穢れを見ることが出来るならば、“他人を赦す”ということが真心から出来るはずです。“あなたは人間！”として神が私を生んで下さったことは、“あなたのおかれた場で、私キリストが生きたように生きることなのだよ”とあって、自分と人を赦すことを教えて下さった神さまの愛は、どんなに暖かく寛大なものかをしみじみ感じるこの頃なのです。

「河童」

少し前のNHK朝のドラマで、遠野物語に関連して河童の淵が登場していました。

河童の淵の案内人と称するおじいさんが、淵に釣り糸を垂れて河童を釣り上げようとしている場面です。

「河童ってほんとうにいるんですか？」と近寄ってきた女主人公に彼は次のように云うのです。

「河童はね 見るもんじゃないよ 逢うんだよ。」

何という素敵な言葉だろうと、私は感動しました。

対象として目の前に置いて、単に見る「もの」としてでなく、身をもって互いを認め合い、全身全霊で相手の全部を受けとるということを示す見事なひと言ではありませんか。

そうです。河童を見た人はいないのかもしれないけれど、でも、河童に逢った人は必ずいるのだと、私はとても嬉しかったのです。

「顔」

小学校に入学した頃の孫が、或る日こんなことを云いました。

「パパが（授業参観などで）学校にきてくれるのボクすごくうれしいんだ。」 パパの母である私には、正によろこびの訪れ、福音です。

それなのに、又はそれだからこそなのかわかりませんが、「本当？ ねぇどうしてうれしいの？」（何という浅はかな問いかけ・・・） 孫は一瞬困り果て、暫し黙考の末「あのね、パパは恰好いいから。」 「へえ ねぇどこが恰好いいの？」（あゝ救いようのない愚かさ） 可哀相に孫は一生懸命に考えあぐねて必死です。そしてやっと思い当たったのでしょう。瞳を輝かせて叫びました。「顔！」。

私は、突然 不意に悲しみに襲われ、心いっぱい何か満ちました。ゆるしを乞いたい思いをこめて「そうか そうか、いいねぇ」といいながら孫を抱き寄せました。

小さな孫は私に大きなことを告げたのです。

「顔」とは、森 一弘神父さまの著書によりますとヘブライ語でパーニ

ームといい、その人の内側が相手に向かう、交わりが始まるという意味をもつそうです。

孫は、自分の父をハンサムだと云ったわけではありません。彼にとってパパの顔は、他の如何なる顔と違って唯一つのボクのパパの顔なのです。孫は最初から「パパとボクは大好き同士だよ」と私に告げていたのです。

おばかなおばぁちゃんは泣きたい気持ちで幸せに包まれました。

## 「花」

或る時期、私は山歩きに熱中していました。

此処は丹沢が近いので、大山、塔ノ岳、鍋割、表尾根縦走 と月に二回ほどの頻度で大いに堪能したものです。

或る時、鍋割りからの帰りに、道端に咲くそれはそれは可憐な花をみつけて、友達と二人歓声を上げ地に這いつくばって、見とれ愛でました。何ともいえない風情のある愛らしい花だったので。

帰宅して暫くして、友達から電話がありました。「あの花 調べてみたのよ」〇〇という名前らしい、分布は〇〇県らしい、というのです。

正直いって私は思いがけなさに呆然としました。花の名前とか分布とか些かも考えてみたこともなかったのです。必要としないというのか名前など私にはどのような名前でも同じだったでしょう。

あの日、あの時、風に揺れて健気にすっくと立っていた姿、うす紫の繊細な色合い、花卉・・・晩秋の山道でのはっとする鮮明な出会い。大袈裟に云えば、一瞬の永遠、又は永遠の一瞬、その全てがしっかりと私の内に入ったのですから。今も確として在るのですから。

但し、その友達のことは大好きです。彼女のすぐ調べてみるという振る舞いも大好きです。

## 「完」

私達は「彼」を見たことはないが愛しています。

# いのちの言葉 1月

絶えず祈りなさい。

(一テサロニケ 5・17)

「キリスト教一致祈禱週間」は、今年百周年を迎えます。「キリスト者一致のための八日間の祈り」が最初に行われたのは、1908年1月18日から25日にかけてのことでした。それから60年後の1968年には、「キリスト教一致週間」が、世界教会協議会と教皇庁キリスト教一致推進評議会により準備され、以来毎年、カトリック教会と諸キリスト教会のキリスト者が共同で、キリスト教一致週間のための小冊子を作成するようになりました。

今年のテーマとなるみ言葉は、アメリカの大きなエキュメニカル・グループにより選ばれたもので、ギリシャの町テサロニケのキリスト者に向けてパウロが書いた、第一の手紙からとられています。テサロニケの共同体は小さく、生まれて間もなかったので、パウロは、キリスト者同士的一致がますます強くなる必要性を感じていました。パウロは彼らに、「平和に過ごし」、誰に対しても忍耐強く接し、悪をもって悪に報いず、お互いの間でも、すべての人に対しても善を行うよう勧めています。また「絶えず祈る」よう招いていますが、これは、祈りの生活があって初めて、キリスト者共同体の一致が可能になることを強調していると言えるでしょう。イエスご自身、ご自分に従う人々の一致のため、「すべての人を一つにしてください」<sup>1</sup>と御父に祈られました。

絶えず祈りなさい。

なぜ「いつも祈る」必要があるのでしょうか。祈りは、人間が本来の姿であるために、なくてはならないものだからです。私たちは、神の「相手」となる存在として、神と交わりの関係を生きられるよう、神の似姿に造られました。祈りとは、神と友のような関係を持ち、自然でシンプルな真実の対話をすることを意味しますが、これは私たちにとって、決して欠かすことのできないものです。このような神との関係があつてこそ、私たちは、神の子の尊厳を豊かに備えた真の人間でいられるでしょう。

神の「相手」となるよう造られ、聖霊により心を愛で満たされた私たちは、絶えず神との関係を生きることが出来ます。父である神への信頼があるからこそ、私たちはしばしば神と語り、自分に関するあらゆること、考えや計画を、神に差し出すことができます。この信頼があるからこそ、私たちを愛してくださる御方との深い交わりを生きるために、一日の中で、ちょっと仕事や家族から離れて過ごす祈りの時間が待ち遠しくも感じられるのです。

私たちは、自分に必要だからというだけでなく、キリストの神秘体を築き、目に見える完全な交わりをキリストの教会にもたらすためにも、「絶えず祈る」必要があります。この神秘は、「連通管」(数本の管が底の部分でつながっているも

<sup>1</sup> ヨハネ 17・21

の)の原理を考えると、理解しやすいかもしれません。管の一つに水を入れると、他のすべての管の水位もあがる、というのですが、誰かが祈る時にも、同様のことが起こります。祈りは、神をたたえ、感謝を捧げるため、神に向かって自らの魂を高めることですが、一人の人が高められると、他の人たちも高められるのです。

## 絶えず祈りなさい。

「絶えず祈る」ことは可能でしょうか。特に、日々の生活の渦に巻き込まれる時には、どうすればいいでしょう。

「いつも祈る」とは、祈りの量を増やすことではありません。自分の魂と生活を神の方に向け、神のみ旨を果たしながら、生きることを意味します。勉強や仕事、苦しむことや休養することも、私たちは神のために果たすことができ、死すらも神のために迎えることができます。やがて日々の生活の中で、私たちは神と一致せずには生きられないようになるでしょう。

私たちの行動は、聖なる行いへと変えられていき、一日のすべてが祈りになるでしょう。

一つひとつのことを「イエス、これはあなたのために」と言いながら果たし、また困難の中では、「大切なのは、あなたを愛することだけです」と言って果たすなら、その行いを神に捧げる助けになるでしょう。こうしてすべてが、愛の行いになっていきます。

私たちが絶えず愛するなら、絶えず祈ることになるのです。

キアラ・ルービック  
(2008.1)

★ いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

年末のある日。午前中は年賀状書きで、普段なかなか連絡が取れない方やずっとご無沙汰している方など、ひとりひとりの顔を思い浮かべ、神様にゆだねながら、挨拶の言葉を書いていきました。途中で、知人から電話が入りました。苦しみを抱えているその人がずっとそのことを話してくれましたが、私に解決できることではなく、ただ心をからっぽにして聞くことだけ努めました。その人は最後に「聞いてくれてありがとう。少し心が軽くなった」と言ってくれました。午後は友人宅に招かれていたので、そちらに向かいながら、満員電車の中でおしゃべりや携帯メールをしている人、疲れた面持ちで眠りこけている人を見ながら、クリスマスのときに感じた「イエス様はすべての人のために世に来られた」ことを改めて思い出し、「この人たちは知らないけど、一人一人がイエス様に愛されているんだ」と思って、心の中で祈りました。友人宅に着き、子供たちと遊んだり、友人の話をじっくり聞いたり、よいひとときを過ごし、友人はとても喜んでくれました。夜かなり遅く家に戻り、寝る準備をしながら、心に静かな神様の存在を感じました。「いつも愛するなら、いつも祈ることになる」と実感しました。

(東京都・T)

## 連絡先

フォコラーレ：03-3707-4018/03-5370-6424

E-mail:tokyofocfem@ybb.ne.jp

ホームページ：

<http://www.geocities.jp/focolarejapan/focolaresito>

雲よ

ビルの最上階のレストラン  
騒がしいランチタイム  
窓際のテーブル  
寂しさのあまり  
窓の外を見渡す  
青空に白い雲が動いていく  
この騒がしさとは関係ないというように  
清らかに・・・ゆっくりと雲は流れていく

主よ、あなたはこの白い雲達を  
今何処かで、きっと眺めているのですね  
あなたの削った雲の一つひとつが  
何処へ旅してゆくのか  
知っているのですね

雲がひとつでも消えていく時  
主よ、あなたをご存知なのですね  
ひとつの雲を悼んで  
あなたは涙を流すのだろうか？

死んで行く雲をひとつ  
わたしの心の中にください  
心を青空にして優しく迎えますから  
安らかに、微笑んで  
わたしの心の空をすべって行けるように

わたしの心の中で  
雲が消えて行く時  
雨が降って、心の乾いた土地が潤うでしょう  
わたしの心の中を、さわやかな風が通り抜けるでしょう  
そして、わたしの寂しさも土に還って行く  
上から、祈りの花が芽生えます

丸山知佳子



ろんろんと児この手に振るオルゴール畳一帖の小  
春日の上

オルゴールの音の愛しさわが手もて振れば響なる  
なり遠すきき過去ゆき

うう・ぶうと涎たらしめて児の吹くラッパの鳴れ  
ば自もわらふなり

故クララ、密本 延枝 さまの歌集「オルゴール」より





*Angelico*

*Polittico dei Domenicani*



# カルメル会の企画案内



# 内案画金の会小々小



カルメル霊性センター主催

2008年度

## カルメル会四旬節講話シリーズ

テーマ：使徒パウロの霊性に学ぶ

—「聖パウロ年」を迎えるにあたって—

使徒パウロは、現在のトルコにあるタルソスで、紀元7年から10年の間に生まれたとされています。キリストの弟子たちを迫害していた彼は、ダマスコに向かう途中、復活したキリストと出会って回心し、異邦人の使徒として活躍します。60年代半ば、ローマで殉教しました。昨年6月28日、教皇ベネディクト16世は、2008年の6月28日から一年間を聖パウロの特別聖年とすると発表し、現代の教会がこの使徒の宣教の熱意と犠牲の精神にならうよう呼びかけました。今年はパウロの霊性を、皆さまと共に学んで行きたいと思えます。

場所：カトリック上野毛教会聖堂（東急大井町線上野毛駅下車徒歩7分）

世田谷区上野毛2-14-25 カルメル修道会（TEL 03-3704-2171）

日時：下記の各日曜日 午後2時半開始 入場無料（講話の後、主日のミサ）

- 2月10日（日） 大瀬高司（カルメル修道会司祭）  
「カルメルとパウロ 一史的歩みの中で」
- 2月17日（日） 渡辺幹夫（カルメル修道会司祭）  
「イエスのテレジアとパウロ」
- 2月24日（日） 伊従信子（ノートルダム・ド・ヴィ）  
「幼きイエスのテレジアとパウロ」
- 3月2日（日） 澤田豊成（聖パウロ修道会司祭）  
「パウロ：キリストに捕らえられた使徒  
—キリストがわたしの内に生きておられる（ガラ2:20）」
- 3月9日（日） 九里 彰（カルメル修道会司祭）  
「十字架のヨハネとパウロ」

※四旬節講話日程（霊性センター1月号：九里師日程分）に誤りがありました。

⑥ 3月9日（日） ← 誤 3月31日（土）

上野毛霊性センター '08年2月～'09年3月

ご注意! 聖テレジア修道院（黙想）のEメールは故障中ですので、  
お申し込みは電話・FAX・ハガキでお願いいたします。

A 黙想企画 \*\* 聖テレジア修道院（黙想） \*\*

1. 一泊聖書深読（毎回土曜日 夕食～日曜日16時）

2月23日～24日 九里彰師

5月24日～25日 カルメル会士

7月26日～27日 カルメル会士

11月29日～30日 カルメル会士

09/ 1月24日～25日 カルメル会士

日帰り聖書深読（毎回土曜日午前10時～午後4時）

3月15日 九里彰師

2. 奉獻生活者のための黙想会

A 8月 5日（火）夕食～ 8月14日（木）朝 カルメル会士

B 8月18日（月）夕食～ 8月27日（水）朝 カルメル会士

C 11月 8日（土）夕食～11月17日（月）朝 カルメル会士

D 12月26日（金）夕食～09/1月4日（日）朝 カルメル会士

3. 木曜黙想会 一般黙想（毎回木曜日10時～16時）

2月28日 見えない者は、見えるようになる 九里彰師

3月27日 あなた方に平和があるように 福田正範師

4月 3日 未定 カルメル会士

6月 5日 未定 カルメル会士

9月 4日 未定 カルメル会士

11月 6日 未定 カルメル会士

09/ 1月 8日 未定 カルメル会士

3月12日 未定 カルメル会士

## 4. 金曜黙想会 カルメルの聖人 (毎週金曜日 10時~16時)

|           |            |        |
|-----------|------------|--------|
| 2月 8日     | 御復活のラウレンシオ | 福田正範師  |
| 5月 9日     | 未定         | カルメル会士 |
| 7月 4日     | 未定         | カルメル会士 |
| 10月10日    | 未定         | カルメル会士 |
| 12月12日    | 未定         | カルメル会士 |
| 09/ 2月13日 | 未定         | カルメル会士 |

## 5. 一般黙想会 (毎回土曜日 夕食~日曜日16時) カルメル会士

4月 5日~ 6日  
 6月21日~22日  
 10月25日~26日  
 09/ 2月 7日~ 8日

## 6. 青年黙想会 (男女) カルメル会士 神学生

4月25日 (金) ~27日 (日) 17時受付  
 10月 4日 (土) ~ 5日 (日) 15時受付

## 7. 召命黙想会 (男女) カルメル会士

6月28日 (土) ~29日 (日) ・ ・ 15時受付  
 11月22日 (土) 20時~24日 (月) ・ ・ (22日は夕食を済ませてご参加ください)

## 8. 大祭日のミサに与かるために

【聖週間を祈る】 ・ ・ チェックイン午後3時、チェックアウト午前10時

聖木曜日から復活祭まで通して参加可能です。またどの曜日からでも参加可能。

3月20日 (木) ~23日 (日) 《講話なし、各食事つき》

【クリスマス】 ・ ・ チェックイン午後3時、チェックアウト午前10時

12月24日 (水) ~25日 (木) 《講話なし、夕食なし》

## 9. 特別黙想会 “私は神をみたい” シリーズ 伊従信子NDV

5月16日 (金) 20時~18日 (日) 16時 (16日は夕食を済ませてご参加ください)

「私は神をみたい」 ・ ・ ・ マリア

10月11日 (土) 20時~13日 (月) 16時 (11日は夕食を済ませてご参加ください)

「私は神をみたい」 ・ ・ ・ イエスの渇き

10. 待降節黙想会 カルメル会士

12月5日(金) 20時~7日(日) 16時 (5日は夕食を済ませてご参加ください)

11. 四旬節黙想会 カルメル会士

09/ 3月6日(金) 20時~8日(日) 16時 (5日は夕食を済ませてご参加ください)



電話でのお問い合わせは午前9時から午後4時45分までをお願いします。  
またお申し込みは電話でもお受けしますが、間違いを避け、時間も問いませんので  
なるべくFAX・はがき・~~Eメール~~でもお願いします。(お返事はいたします)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院(黙想)

TEL 03-5706-7355

FAX 03-3704-1764

Eメールは工事中のため、しばらくは 電話、ハガキ、FAXでお願いします。

## B カルメル靈性研究クラス（九里 彰神父）

\* アヴィラの聖テレジア『創立史』

2月6日 第31章、エピローグ

\* アヴィラの聖テレジア『靈魂の城』

3月12日 序、第一の住居（第一章と第二章）

毎月一回水曜日夜7：15～8：45まで。テキストを少しずつ読み、解説と分かち合いがあります。随時参加もOKです。上野毛教会信徒会館2階26号室。無料。テキストは、東京女子カルメル会訳（ドンボスコ社）を使用します。

## C 念祷の集い（九里 彰神父）

2月22日 「ペトロの幸い」

3月28日 「空の墓」

毎月一回金曜夜7：15分より。上野毛聖テレジア修道院（黙想）小聖堂。都合の悪い場合は、上野毛教会信徒会館ホールで。無料。

7：15 聖歌 始めの祈り

み言葉と念祷

終わりの祈り 聖歌

8：15 分かち合い

8：45 片づけ 解散

## D 東西靈性研究クラス（九里 彰神父）

広く東西の靈性について学ぶクラスです。

\* 毎月第二金曜日（午後7：15～8：45）信徒会館26号室。無料。

講談社学術文庫（金谷治訳注）を使用します。

\* 第9回 2月8日 『老子』第42章～第51章

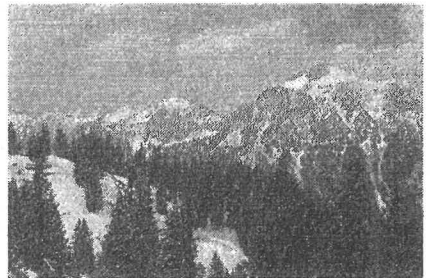
\* レポーター：福井 昭一

\* 各回とも、参加者に順番でレポーターを勤めて頂きます。その後、分かち合い。

\* 問い合わせ： 加藤和彦 TEL（03）3418-6816

E-mail [tokyo@carmel-monastery.jp](mailto:tokyo@carmel-monastery.jp)

\* 第10回 3月14日 第52章～第61章



# C.Y.C.(カルメル・ユース・クラブ)

キリスト者青年の集い

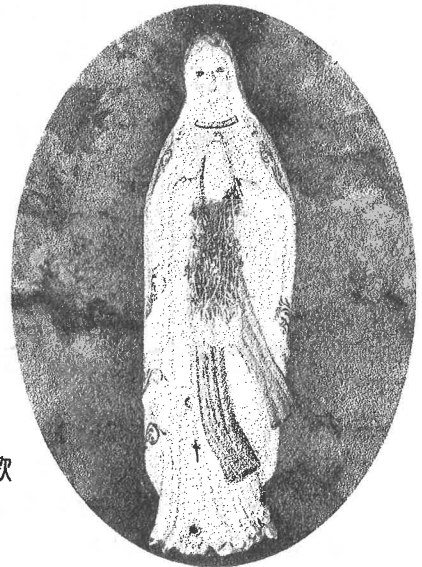
## 「ルルドの聖母」

1858年2月11日に、フランスのルルド近郊のマッサビエールの洞窟で、無原罪のマリアが少女ベルナデッタに初めて現れました。ベルナデッタへの一連のマリア出現は、教会によって真実なものとして認められ、「ルルド」は国際的な巡礼地となっています。今回はこの出現のことをふりかえりながら、聖母の取次ぎを願って祈りたいと思います。

日 時 : 2月17日(日) 13:30~16:30  
対 象 : 18歳以上 35歳までの 青年男女  
スタッフ : カルメル会士  
場 所 : 上野毛教会 信徒会館  
東急大井町線 上野毛駅下車 徒歩5分

## プログラム

|             |                                    |
|-------------|------------------------------------|
| 13:20~      | 受付                                 |
| 13:30~14:25 | 始めの祈り・講話・分かち合い                     |
| 14:30~15:55 | 聖母賛歌・ロザリオの祈り・<br>み言葉と念祷・聖母の連祷・聖母賛歌 |
| 16:00~16:30 | 分かち合い(茶話会)・終わりの祈り                  |
| 16:30       | 解散                                 |



## その他

☆ 事前の申込みは不要ですので、お気軽にお越し下さい。お問い合わせに関しましては FAXまたはE-mailに、住所、氏名、年齢をお書きいただき、下記までお送り下さい。

☆ 今後のC.Y.C. … 3月16日(日)、4月20日(日)、5月18日(日)、6月8日(日)、7月6日(日) です。

※C.Y.C.のご案内は、カルメル霊性センターのホームページからご覧いただけます。  
<http://www4.ocn.ne.jp/~carmel/> (各種黙想会・企画のご案内もございます。)

カルメル修道会 カルメル・ユース・クラブ (C.Y.C.) 係 (神学生: 古川)

[Fax] 03-3704-1764 [E-mail] [tokyo@carmel-monastery.jp](mailto:tokyo@carmel-monastery.jp)

(〒158-0093 世田谷区上野毛 2-14-25 Tel 03-3704-2171)



新企画!

## 聖書深読黙想会（一日）のお知らせ

毎回好評の一泊聖書深読黙想会の姉妹編。



現在、一泊聖書深読黙想会が行われていますが、多くの方の要望により、どなたでも参加しやすい日帰り聖書深読黙想会を企画しました。  
 聖書を深く読み解き、分かち合いによって、今までとは違う聖書の世界が見えてくるかもしれません。

聖書に関心がある方はどなたでもご参加下さい。

日時：11月17日（土）九里彰師 了

08年 1月12日（土）九里彰師 了

3月15日（土）九里彰師

毎回 10：00～16：00（昼食付）参加費用¥3,500

## \*持参するもの

聖書（準備されておりますが、ご自分の聖書のほうが使いやすいと思われる方はご持参下さい）筆記用具。

## \*お申込：

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

カルメル修道会上野毛聖テレジア修道院（黙想）

Tel 03-5706-7355 Fax 03-3704-1764

Eメール mokusou@carmel-monastery.jp

＊ ＊ 宇治聖テレジア修道院 (黙想) ＊ ＊

1. 聖書深読

一泊二日 (午後5時～午後4時)

|                     |        |
|---------------------|--------|
| 3月 8日 (土) ～ 9日 (日)  | 新井延和神父 |
| 5月17日 (土) ～18日 (日)  | 渡辺幹夫神父 |
| 7月 5日 (土) ～ 6日 (日)  | 新井延和神父 |
| 9月20日 (土) ～21日 (日)  | 渡辺幹夫神父 |
| 11月 8日 (土) ～ 9日 (日) | 中川博道神父 |

1日 (午前10時から午後4時)

|            |        |
|------------|--------|
| 2月 2日 (土)  | 新井延和神父 |
| 4月12日 (土)  | 渡辺幹夫神父 |
| 6月21日 (土)  | 新井延和神父 |
| 10月 4日 (土) | 畠 基幸神父 |
| 12月13日 (土) | 新井延和神父 |

2. 水曜黙想 (午前10時～午後4時)

|                    |          |
|--------------------|----------|
| 2月20日 聖書の祈り        | 新井延和神父   |
| 3月12日 主の受難         | カルメロ神父   |
| 4月 2日 キリストの復活      | 新井延和神父   |
| 5月28日 聖霊の賜物        | 長岡幸一神父   |
| 6月11日 ご聖体          | ベルナルド神父  |
| 7月23日 カルメルの祈り      | 新井延和神父   |
| 9月10日 神との親しさ       | 中川博道神父   |
| 10月 8日 アヴィラの聖テレジア  | sr.パウリーナ |
| 11月19日 三位一体のエリザベット | ベルナルド神父  |
| 12月17日 十字架の聖ヨハネ    | 渡辺幹夫神父   |

3. 四旬節黙想 (午後5時～午後4時)

2月9日 (土) ～2月10日 (日) カルメロ神父

- 4.待降節黙想（午後5時～午後4時）  
12月6日（土）～7日（日） 新井延和神父
- 5.聖テレーズの黙想（午後5時～午後4時）  
9月30日（火）～10月1日（水） 伊従信子（NDV）
- 6.一般黙想（修道者も可能）午後5時～午前9時  
4月29日（火）～5月6日（火） 渡辺幹夫神父
- 7.奉獻生活者のための黙想（午後5時～午前9時）  
8月 2日（土）～11日（月） 渡辺幹夫神父  
8月18日（月）～27日（水） 中川博道神父  
10月18日（土）～27日（月） 渡辺幹夫神父  
12月27日（土）～1月5日（月） 新井延和神父
- 8.青年のための黙想会・男女（午前10時～午後5時）  
11月2日（日） カルメル宣教修道女会、渡辺幹夫神父

.....

その他皆様が企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。

\*申し込み方法

電話でも受け付けておりますが、できるだけFAXあるいはハガキでお名前と連絡先をご記入の上お申し込みください。なお、お電話でお申し込みの場合、なるべく午前9時～午後5時の間にお願いたします。受付が休みになっている時はすぐに返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせくださるようお願い申し上げます。

宇治カルメル会 聖テレジア修道院（黙想）  
〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12  
TEL 0774-32-7016  
FAX 0774-32-7457

# 「立ちどまって、ひとりになって、感じてみよう！」

## ～都会の中の日静修～（2008）

この会は、現代の忙しい社会の中であって、また都会の中であって、神様との静かなひとときを過ごすために企画しました。イエス様は、「わたしは世の終わりまで、いつもあなたと共にいる。」（マタイ28：20）と言われました。

ともにいるイエス様とのひとときを、都会の真ん中で過ごしてみたいかでしょうか。

今年は、年間共通テーマとして、「祈りを生きる～主よ、私たちに祈ることを教えてください～」としました。

このテーマを通して、魂の呼吸であるといわれる祈りを、日々の神様との出会いの中で、主のみ前に自分をおき、静かに主のみ声に耳を傾け、主と語り、主を生きる喜び、恵み、愛を思い巡らしながら、神様と交わりをより深めていく事ができるたらと願っています。

|      |              |                |                      |
|------|--------------|----------------|----------------------|
| 第1回  | 1月14日(月) *祝  | 日常の祈りの心、形、方法   | 中川博道神父(カルメル会本部)      |
| 第2回  | 2月16日(土)     | イエスは祈られた       | ベルナルド神父(宇治修道院)       |
| 第3回  | 3月15日(土)     | 苦しみの時の祈り       | 新井延和神父(宇治修道院)        |
| 第4回  | 4月12日(土)     | 賛美と感謝の祈り～ミサ～   | 今泉健神父(上野毛修道院)        |
| 第5回  | 5月24日(土)     | ロザリオの祈り        | 渡辺幹夫神父(宇治修道院)        |
| 第6回  | 6月14日(土)     | 主の祈り           | 新井延和神父(宇治修道院)        |
| 第7回  | 7月21日(月) *祝  | 聖エリアの祈り        | 中川博道神父(カルメル会本部)      |
| 第8回  | 9月27日(土)     | 幼いイエスの聖テレジアと祈り | 未定                   |
| 第9回  | 10月13日(月) *祝 | アヴィラの聖テレジアと祈り  | Sr/パウリーナ(宣教カルメル修道女会) |
| 第10回 | 11月22日(土)    | 十字架の聖ヨハネと祈り    | 九里彰神父(上野毛修道院)        |

\* 時間 AM10:00～PM4:00

\* 場所 カトリック日比野教会(地下鉄・名城線日比野下車徒歩約5分) \*聖テレジア幼稚園隣接

\* 駐車場は利用できません。

\* 費用 1,000円

\* 持ってくるもの 聖書、筆記用具、ロザリオ、弁当

\* 定員 約20名

\* プログラム  
 10:00～ 祈り  
 10:40～ 講話【1】  
 12:00～12:45 昼食  
 12:50～ 赦しの秘跡または短い面接  
 13:30～ 講話【2】  
 14:45～ ミサ  
 15:30～ 茶話会  
 16:00～ 終了

☆ 空いている時間に、赦しの秘跡または短い面接を受けることができます。

申し込みは、下記の住所へハガキかFAXで、氏名・住所・TELを記載の上、開催日の3日前までに必着のこと。なお、日比野教会で葬式などがある場合は、中止となりますので、ご了承下さい。

☆ 名古屋カルメル霊性センター—日静修係

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝4-5-17カルメル会日比野修道院 FAX052-671-1825

または、〒465-0058名古屋市名東区貴船3-2115 小林厚 TEL/FAX052-701-3685

## 聖書深読センターのご案内

- 1 東京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。
- 2 宇治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。

**NEW企画!**

### 聖書深読会ご案内 2008年度

日曜日の福音を、読み、味わい、分かち合い、解読で学んで  
福音を心に刻みます。どなたでも、自由にご参加ください。

1. 5月31日（土） 畠 基幸神父
2. 7月19日（土） 新井延和神父
3. 9月13日（土） 新井延和神父

場所；唐崎黙想の家（ノートルダム教育修道女会）

費用；1,500円（昼食代含む）

時間；午前10:00～午後4:00

住所；〒520-0106 滋賀県大津市唐崎 1-3-1

TEL 077-579-7560

交通；JR京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車

琵琶湖の方へ徒歩 約13分

申し込み・問い合わせ；TEL 075-781-6438

FAX 075-781-8935 Sr.福島まで

各回、お申し込みは前日までに  
電話、ファックス、または葉書にてお願いします。

## 通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち2箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

### 1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解説が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月 17,900円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は 15,950円

講師：九里彰師（奇数月） 新井延和師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル

私書箱 21号 朝日カルチャーセンター通信講座部

電話 03-3344-2527（直通）

### 2 ミニ深読

グループで2、3時間かけて聖書深読法の一部を行います。

聖書深読黙想会に参加経験のある方に限ります。

遠方に、参加希望者が多数いる場合には、有光、またはSrパウリーナが指導に行くことも可能です。

問い合わせは「聖書深読センター」事務局 Srパウリーナまでご連絡下さい。

◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センターにお問い合わせ下さい。



#### 聖書深読センター

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

所長：奥村一郎神父 事務局長：新井延和神父 連絡先：Srパウリーナ

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール [carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp](mailto:carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp)

## カルメル会出版物のご案内

### 雑誌「カルメル」No. 326 (2007年秋号)「今日の靈性」

- \* 聖靈の光のもとに 一教父たちの教えと生き方(7) …高橋正行
- \* 【靈的講話】存在の根底に立ち返る …中川 博道
- \* 十字架の聖ヨハネ講話 (8) …フェデリコ・ルイス  
アヴィラの聖テレジアのとらえた「謙遜」の意味(6) …九里 彰  
愛で生きる(6) …ペトロ・アロイジオ  
エリザベットの「魂のこだま」、ギット(3) …伊従信子  
カルメルの響り(10) 一結実 OCD女子修道院創立とその後 …大瀬高司  
幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師(18) …伊従信子
- \* すべてを受け入れる …森 みさ  
愛の断章(5) …奥村一郎

### 雑誌「カルメル」No. 327 (2007年冬号)「今日の靈性」

- \* 聖靈の光のもとに 一教父たちの教えと生き方(8) …高橋正行
- \* 【靈的講話】存在の根底に立ち返る(続) …中川博道
- \* 十字架の聖ヨハネ講話 (9) …フェデリコ・ルイス  
アヴィラの聖テレジアのとらえた「謙遜」の意味(7) …九里 彰  
愛で生きる(7) …ペトロ・アロイジオ  
エリザベットの「魂のこだま」、ギット(4) 一妹への最後のことば …伊従信子  
カルメルの響り(11) 花咲くぶどうの樹 ～在俗者会と男子会員～ …大瀬高司  
幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師(19)  
一日々の生活で信仰を生きる …伊従信子
- \* リジューの聖テレーズとペトロ岐部  
一本質を見定めることの大切さ …谷口正子  
愛の断章(6) …奥村一郎

※ 雑誌「カルメル」はどなたでもご購入できます。ご希望の方は、年会費(年5冊:春夏秋冬号+特集号、送料込み)として、3000円を下記へお振込みください。

郵便振替: 00190-4-195457 跣足カルメル修道会

(お問い合わせは、事務担当竹田まで。TEL(03)5706-8356)

### 待望の再販

『自叙伝』(サンパウロ社)、『創立史』『完徳の道』『靈魂の城』(ドン・ボスコ社)

# リジューの聖テレーズ布教事業の保護者宣言80周年

## 記念御絵



\* ご絵は、カルメル会上野毛修道院で取り扱っています。

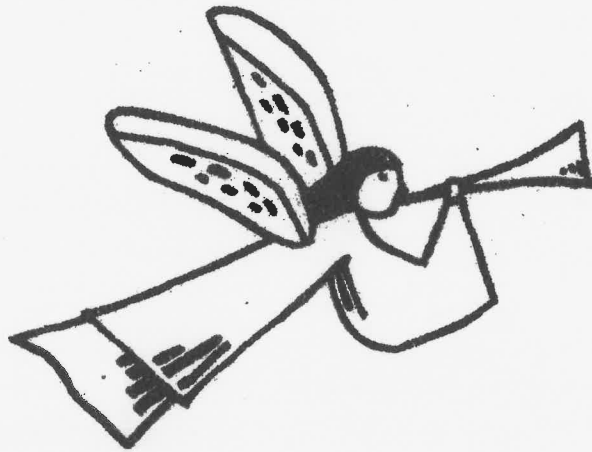
- A. 6cm×10.5cm (¥30)
- B. ハガキ (¥100)
- C. 25.5cm×30.5cm (¥300)

上記の3種類のサイズがあります。ご希望の方は、FAXにてサイズ別の枚数をご記入の上、お申込み下さい。

FAX: 03-3704-1764



# 諸所の企画案内



CWC 企画

心のいほり

リーゼンフーバー神父キリスト教講座

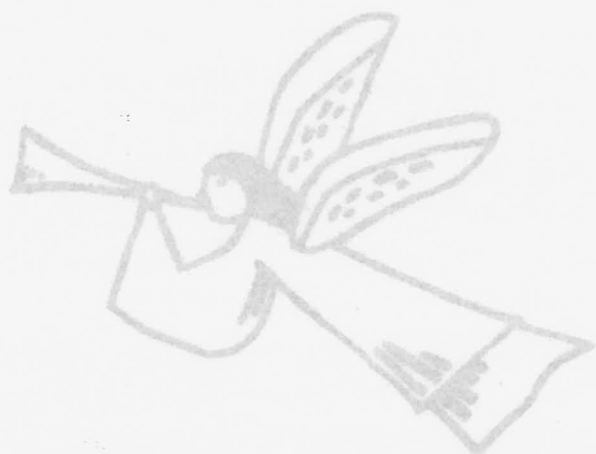
ノートルダム教育修道女会

聖ドミニコ女子修道会

コングレガシオン・ド・ノートルダム

ノートルダム・ド・ヴィ

# 内案画企の両誌



画企 CWC

のり/の心

画報時イし半父幹一ハ一てくけーし

会文版新育時△せハ一し

会版新そ文に二三ノ屋

△せハ一し・ホくホせはしでに

トセ・ホ・△せハ一し

# 諸所の企画案内

## 【CWC 講話会】

現在は、「聖書深読入門」を行なっています。

講師：九里 彰神父（カルメル会）

日時：原則として第二火曜日（以下のとおりです）

場所：真生会館4階第8会議室 時間：午前10時30分～12時

対象：キリスト教に関心のある方はどなたでも。

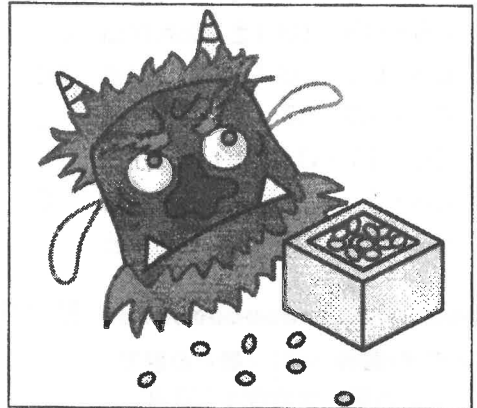
連絡先：神藤（CWCスタッフ）TEL（03）3642-5629

## 2008年

2月12日（火）

3月11日（火）

4月以降は未定。



### 方法

1. まず講師の選んだ聖書箇所を皆で一節ごとに「輪読」。
2. その後、沈黙の内に何度も読み、み言葉を味わう「素読」。
3. 「素読」で受け取ったものを、一節ごと皆で分かち合う「合読」。  
他者の発言に対し、一切批評はしない。自分のことのみ発言する。  
（無理に発言する必要なし。何も発言しなくてもOK。）
4. 「合読」を受けて、講師がその日の箇所について解説する「解説」。

# 内観黙想の予定表

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などにご注意下さい。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み6万円です。

◎ファックス・手紙でセンターに問い合わせして下さい。電話では取次いでおりません。  
申し込みは会場予約準備がありますので、10日前までに完了をお願いします。

◎〒572-0001大阪府寝屋川市成田東町3-27「心のいほり 内観瞑想センター」  
藤原神父 FAX 072・802・5026

予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。

## ★2008年度★

|   |    |              |      |           |      |              |
|---|----|--------------|------|-----------|------|--------------|
| 了 | P1 | 08・01・11 (金) | 2時から | 01・17 (木) | 2時まで | 兵庫・売布・女子ご受難会 |
| 了 | K1 | 08・01・27 (日) | 2時から | 02・02 (土) | 2時まで | 東京・小金井・聖霊会   |
|   | Y1 | 08・02・10 (日) | 2時から | 02・16 (土) | 2時まで | 神戸・須磨・ヨハネ    |
|   | P2 | 08・03・10 (月) | 2時から | 03・16 (日) | 2時まで | 兵庫・売布・女子ご受難会 |
|   | K2 | 08・04・13 (日) | 2時から | 04・19 (土) | 2時まで | 東京・小金井・聖霊会   |
|   | M1 | 08・05・25 (日) | 2時から | 05・31 (土) | 2時まで | 盛岡・白百合       |
|   | K3 | 08・06・01 (日) | 2時から | 06・07 (土) | 2時まで | 東京・小金井・聖霊会   |
|   | N1 | 08・06・24 (土) | 2時から | 06・30 (月) | 2時まで | 滋賀・唐崎・ノートルダム |
|   | Y2 | 08・07・22 (火) | 2時から | 07・28 (月) | 2時まで | 神戸・須磨・ヨハネ    |
|   | H1 | 08・08・18 (月) | 2時から | 08・24 (日) | 2時まで | 姫路仁豊野・マリア    |
|   | P3 | 08・09・13 (土) | 2時から | 09・19 (金) | 2時まで | 兵庫・売布・女子ご受難会 |
|   | K4 | 08・09・28 (日) | 2時から | 10・04 (土) | 2時まで | 東京・小金井・聖霊会   |
|   | Y3 | 08・10・07 (火) | 2時から | 10・13 (月) | 2時まで | 神戸・須磨・ヨハネ    |
|   | N2 | 08・11・04 (火) | 2時から | 11・10 (月) | 2時まで | 滋賀・唐崎・ノートルダム |
|   | P4 | 08・11・30 (日) | 2時から | 12・06 (土) | 2時まで | 兵庫・売布・女子ご受難会 |
|   | K5 | 08・12・09 (火) | 2時から | 12・15 (月) | 2時まで | 東京・小金井・聖霊会   |

## ミニ内観のご案内

### ★滋賀・唐崎・ノートルダム祈りの家で

二泊内観。参加費は2万円

- 2008年3月25日(火)午後1時から  
27日(木)午後4時まで
- 2008年9月23日(火)午後1時から  
25日(木)午後4時まで

### ●問い合わせ

- 唐崎修道院シスター桂川・安井  
電話 077-579-7580  
ファックス 077-579-3804
- 内観瞑想センター藤原  
ファックス 072-802-5026

### ★宝塚売布女子ご受難会修道院にて

一泊内観。参加費は1万円

- 2008年4月26日(土)午後2時から  
27日(日)午後4時まで

### ★内観経験者の集い(関東)

- 2008年4月20日(日)・10月5日(日)
- 聖母訪問会・三浦修道院にて
- 連絡：高階 dhk-ichiro@y7.dion.ne.jp

### ★ブラリと訪れ、静かな時間・内観したい人に

- 長野県下伊那郡大鹿村 小倉家
- 電話0265・39・2778



# リーゼンフーバー 講座・集い 案内

2007～2008年

- キリスト教入門講座 金曜日 18時45分～20時30分 聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール  
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。
- キリスト教理解講座 毎月第1・第3・第5火曜日 18時45分～20時30分 聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール  
キリスト教の基礎知識を持っている方。2年間のコース。  
信仰理解と信仰生活の深まりを目的としキリスト教の中心的テーマを探究します。
- 聖書研究会 木曜日 12時45分～13時25分 上智大学7号館316号研究室  
学生のどなたでも。新約聖書を1章ずつ読んで勉強します。
- 坐禅会 ●月曜日 17時20分～20時10分  
●木曜日 18時～20時30分  
上智大学内クルトウルハイム1階左の部屋。祝日を除く。  
3回坐り、間に講話があります。  
どなたでもどうぞ。初心者も歓迎です。遅刻、不定期の参加も可。
- 接心 ● 4月27日(金)20時30分～5月4日(金)13時 了  
6月22日(金)20時30分～24日(日)13時 了 秋川神真窟。1泊2400円程度。  
8月9日(木)20時30分～16日(木)7時30分 了  
10月20日(火)20時30分～11月4日(日)13時 了  
2008年2月23日(土)8時30分～24日(日)15時30分 上石神井。5600円程度。  
● 5月12日(土)13時～13日(日)16時 了 宝塚市  
8月1日(水)17時30分～7日(火)13時 了
- ミサ 水曜日 17時10分～18時 上智大学内クルトウルハイム1階右小聖堂  
どなたでも。(5月2日、8月全休、10月31日、祝日は休み)
- 黙想 ●「会社帰りの黙想」毎月第2・第4火曜日 18時45分～20時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂  
どなたでも。但し8月14日は休み。8月28日は上智大学内クルトウルハイム聖堂。  
12月25日(火)はクリスマスの黙想(予定)。  
●水曜日 18時～18時30分 上智大学内クルトウルハイム1階右小聖堂  
どなたでも。(5月2日、8月全休、10月31日、祝日は休み)  
●通う登壇 8月18日(土)～8月26日(日) 18時～21時 上智大学内クルトウルハイム聖堂
- 折りの集い ●下記の土曜日 13時30分～16時 上智大学内S.J.ハウス第5会議室  
講話、黙想、ミサがあります。  
4月14日、5月26日、6月30日、7月14日、8月18日、9月8日、10月13日、11月17日、12月8日、  
2008年1月12日、2月2日、3月15日  
●ロザリオの折り 同日16時10分～16時50分 上智大学内クルトウルハイム1階右小聖堂
- 黙想会 5月19日(土)10時～20日(日)15時、9月22日(土)10時～24日(月)14時、12月1日(土)10時～2日(日)15時、  
2008年3月8日(土)10時～9日(日)15時、上石神井。1泊5600円程度。
- アガベ会 下記の日、説明会(13時30分)と集い、ミサ(14時～18時) 上智大学内S.J.ハウス第5会議室  
4月21日(土)、6月16日(土)、10月21日(日)、2008年1月20日(日)
- クリスマス会 12月15日(土) 17時～ 聖イグナチオ教会信徒会館コセフホール(予定)。要申し込み。  
クリスマスのミサ 12月23日(日) 14時～ 上智大学内クルトウルハイム聖堂
- 問い合わせ・連絡先 クラウス・リーゼンフーバー神父(上智大学文学部哲学科教授)  
〒102-8571 東京都千代田区紀尾井町7-1 上智大学 S.J.ハウス  
電話 03-3238-5124(直通)、5111(伝言)、FAX 03-3238-5056  
[http://www.jesuits.or.jp/~j\\_riesenhube/index.html](http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/index.html)  
<http://www.anatomists.net/K-Riesenhuber/index.html>

## リーゼンフーバー神父・キリスト教入門講座 2008年

日時 毎週金曜日 18時45分～20時30分

場所 聖イグナチオ教会（四ツ谷駅前）信徒会館3階アルペホール 電話03-3263-4584

### 各 回 の テ ー マ

- 2/1 秘跡と教会生活—毎日を養う信仰
- 2/8 神の言葉—神との日常的な対話と黙想の仕方
- 2/15 結婚と独身—愛の道
- 2/22 仕事という召し出し—教会と社会に寄与して働く
- 2/29 人間の苦悩—悪とは何のためか
- 3/7 死—その実現と克服
- 3/8-9 ●黙想会
- 3/14 人生の完成—神の内に生きる
- 3/21 ○休み
- 3/23 復活祭。感謝のミサ（14時、上智大学内クルトゥルハイム2階）
- 3/28 聖母マリア—信じる者の原型

## リーゼンフーバー神父・キリスト教理解講座 2008年

日時 第1・3・5火曜日 18時45分～20時30分

場所 聖イグナチオ教会（四ツ谷駅前）信徒会館3階アルペホール 電話03-3263-4584

### 毎 回 の テ ー マ

- 了1/15 困難と苦しみ—その受け入れと克服
- 了1/29 [信仰生活] 教会生活への参加—救いのしるしと典礼の意味
- 2/5 秘跡の恵み—ミサと告解
- 2/19 祈りの本質と諸形態—神との個人的な交わり
- 3/4 深遠な神秘への接近—黙想の意味と仕方
- 3/8・9 ●黙想会
- 3/18 世界に開かれた靈性—活動における観想
- 3/23 復活祭—感謝のミサ  
（14時、上智大学内クルトゥルハイム2階）

## 坐禅会



月曜日 : 17時20分～20時10分

木曜日 : 18時～20時30分

(祝日を除く)

場所 : 上智大学内クルトウルハイム1階正面左の部屋

3回坐り、間に講話があります。

初心者も歓迎です。遅刻も不定期の参加も可。



## 接心 2007年度

### 関東

4月27日(金)20時30分～5月4日(金)13時了

6月22日(金)20時30分～24日(日)13時了

8月9日(木)20時30分～16日(木)7時30分了

10月30日(火)20時30分～11月4日(日)13時了

2008年2月23日(土)8時30分～24日(日)15時30分上石神井、5600円

秋川神冥窟

1泊2400円程度

指導と問い合わせ先:

クラス・リーゼンフーバー神父(上智大学文学部教授)

〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1 上智大学 S.J.ハウス

電話 03-3238-5124(直通)5111(伝言)、FAX 03-3238-5056



## 「会社帰りの黙想」<sup>メディテーション</sup> -あわただしい毎日に平安のオアシスを

月2回、聖イグナチオ教会では黙想の場が開かれます。

リーゼンフーバー神父により、黙想のさまざまな仕方が紹介され、参加者一人ひとりが沈黙のうちに聖書のことばをもとにし、自己を探り静かに考え、祈ることが出来ます。始めと終わりにオルガン演奏もあります。

信仰・宗派を問わず、毎日の忙しさから開放され、夕べのひとつときに心を深めたい方、どなたも歓迎です。随時参加、遅刻可、参加は無料です。初めて黙想なさる方も、お気軽にいらしてください。

日時 毎月第2・第4火曜日 18:45～20:00

※12月25日(火)クリスマス・メディテーション(予定)

場所 聖イグナチオ教会マリア聖堂(中聖堂)

TEL 03-3263-4584

ノートルダム教育修道女会 唐崎修道院

◎ 所在地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1  
Tel： 077-579-7580  
Fax： 077-579-3804  
E-メール： karainorind92@mbe.nifty.com

◎ 交通： JR 京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。  
琵琶湖の方へ徒歩 約 13 分

◎ 日程：

A. 8 日間の個人指導による黙想

- 了 ① 2007 年 12 月 27 日 (木) ~ 2008 年 1 月 4 日 (金)  
② 2008 年 7 月 22 日 (火) ~ 7 月 30 日 (水)  
③ 8 月 16 日 (土) ~ 8 月 24 日 (日)  
④ 9 月 1 日 (月) ~ 9 月 9 日 (火)  
⑤ 10 月 18 日 (土) ~ 10 月 26 日 (日)

初日は、17 時のミサで始まり、最終日は昼食で終わります。

B. 祈りの体験：週末 3 日間 (金曜日の夕食～日曜日の昼食)

【神との親しさの中で日常を生きるために】

- 了 ⑥ 2008 年 1 月 18 日 (金) ~ 1 月 20 日 (日)  
⑦ 2 月 22 日 (金) ~ 2 月 24 日 (日)  
⑧ 4 月 11 日 (金) ~ 4 月 13 日 (日)  
⑨ 5 月 9 日 (金) ~ 5 月 11 日 (日)  
⑩ 6 月 27 日 (金) ~ 6 月 29 日 (日)  
⑪ 9 月 5 日 (金) ~ 9 月 7 日 (日)  
⑫ 10 月 3 日 (金) ~ 10 月 5 日 (日)  
⑬ 10 月 10 日 (金) ~ 10 月 12 日 (日)  
⑭ 10 月 24 日 (金) ~ 10 月 26 日 (日)  
⑮ 11 月 7 日 (金) ~ 11 月 9 日 (日)

他の黙想会が行われている場合があります。



C. 自己発見から神へ I 【講話と実習】

⑯ 2008年2月22日(金)～2月29日(金)

⑰ 10月1日(水)～10月8日(水)

この期間、個人黙想をなさりたい方は、ご相談ください。

D. 上記の日程以外の日、個人で黙想をなさりたい方は、  
問い合わせてください。

◎ 対象：信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎ 霊的同伴者： トニー・ブロードニヤック (マリノール宣教師) 安井 昌子 (ノートルダム教育修道女)  
菊池 陽子 (ノートルダム教育修道女) 松本 佳子 (ノートルダム教育修道女)

◎ 申込み： 1) 名前 2) 住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号) を書いて  
郵送、または、Faxで「黙想係」安井昌子 へ申し込んでください。  
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。 但し、それ以前に  
満室になった場合は、次の機会にお願いすることがあります。

◎ その他： 受付(チェック・イン)は、いずれの場合も、初日の15時から16時45分まで。  
問い合わせは、電話 または、E-メールを ご利用ください。

## 青年の集い

幼子イエスさまの御降誕の喜びを間近に感じる季節となりました。この静かな喜びが私たちの心の深みへと、しみとおりますように。このたび、フランシスコ会の福田誠司神父様をお迎えして「青年の集い」の時を計画いたしました。「いのち、ってなんだろう?」「生きるってどういうこと?」…忙しい日々の中で、ふと足をとめ、ご自分を見つめ直す「時」をご一緒につくってみませんか?ご参加をお待ちしております。

記



日時 2008年2月11日(月) 午前10時~午後3時30分

場所 聖ドミニコ女子修道会 玉川修道院  
(世田谷区玉川4-14-11)

テーマ いのち —生命の尊厳とカトリック教会—

講師 福田 誠司 師 (フランシスコ会)

対象 青年男女

申し込み締め切り 2008年2月8日(金)

申込先 聖ドミニコ女子修道会玉川修道院  
シスター安本、柳原

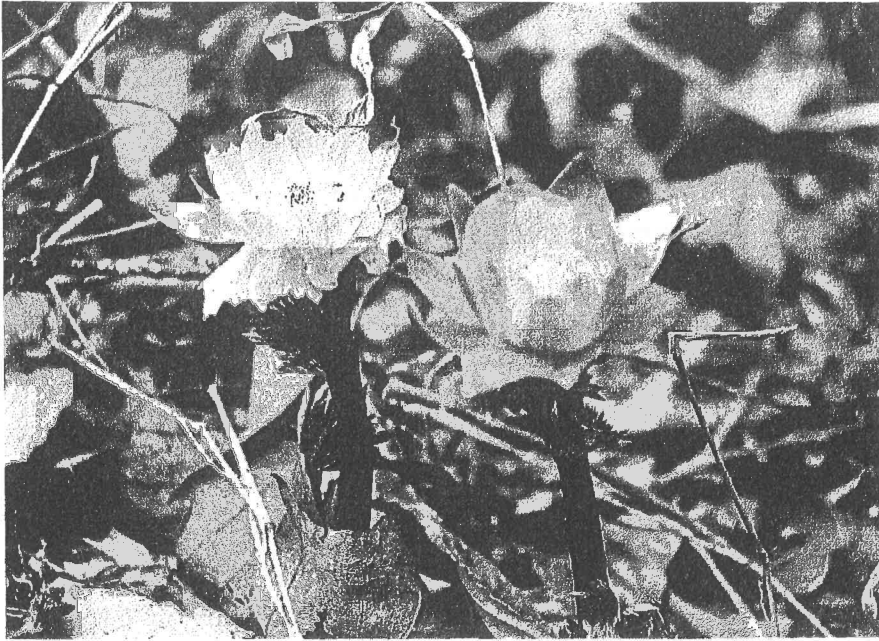
TEL 03-3709-5137

E-Mail [domitama@utopia.ocn.ne.jp](mailto:domitama@utopia.ocn.ne.jp)

いのちを愛される主よ すべてはあなたのもの。  
あなたはすべてを いとおしまれる。  
知恵の書



# 祈りの集いのご案内



## 1 日黙想会

—イエスの息づかい—

- 講 話 : ホアニ・アイダル師(イエズス会)  
日 時 : 2008年3月2日(日) 10:00~4:00  
対 象 : 20代30代の未婚女性  
参加費 : 1000円 申し込み: 3月1日(土)まで

問い合わせ・申し込み

〒182-0034 東京都調布市下石原3-55-1

コングレガシオン・ド・ノートルダム修道院(担当: Sr.山本・Sr.峰・Sr.池田)

京王線調布駅下車徒歩13分(鶴川街道沿いマルガリタ幼稚園隣)

TEL: 0424-82-2012 FAX: 0424-82-2163

E-mail: [prayer3551cnd@hotmail.com](mailto:prayer3551cnd@hotmail.com)

URL: [www.cnd-m.com](http://www.cnd-m.com)

# いのちの泉へ

すべての人のための祈りの集い

カルメルの靈性に学びつつ、キリスト者としての靈性を  
養うための講話と沈黙の祈りで構成された集いです。  
カルメルの靈性を、より深めたい方のグループと、  
若い方、基礎的な信仰を学びたい方のグループがあります

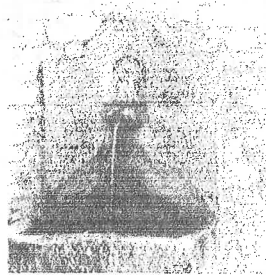
2008年2月16日(土)

講話 伊従信子・片山はるひ

\* 次回の予定 2008年3月1日(土) \*

午後2時より 講話・祈り・分かち合い  
午後5時半 主日のミサ(参加自由です)

参加費 200円



お申し込み・問い合わせ

ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254

e-mail jndv-jp@r2.dion.ne.jp

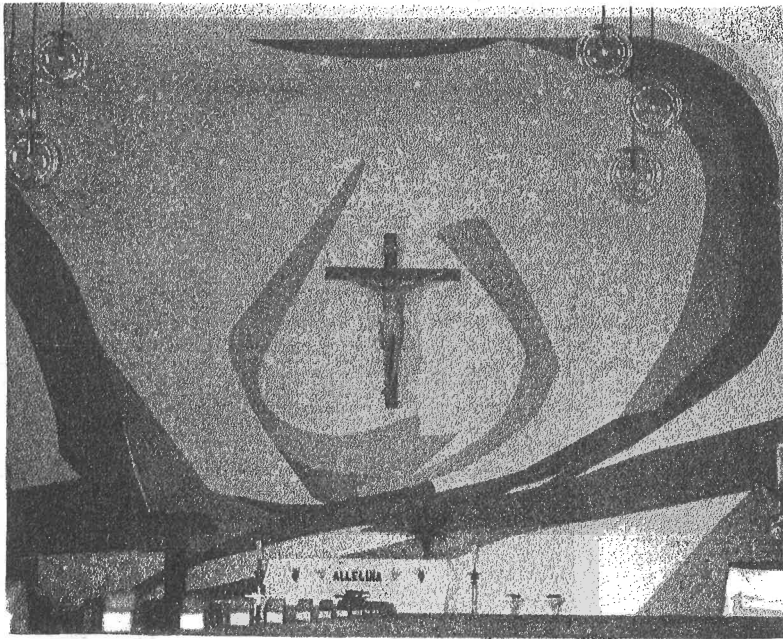
カルメル会の靈性を受け継ぐ ノートルダム・ド・ヴィ (いのちの聖母会) は、  
現代社会のあらゆる場で社会人として働きながら、神への全き奉獻を通して、  
祈りと活動の一致を生きること、子の精神・理想としています

# 新刊紹介 新刊紹介

谷口正子著

## 仏教とキリスト教の中の『人間』

『歎異抄』・宮澤賢治・石牟礼道子ほか



(ポール藤野の聖堂壁画)

\* 宗教と詩と世界経験が「人間」へと収斂していった。

現代世界における人類破壊の流れに抗しようとする著者谷口正子さんの切なる祈りがこめられている。

(京都大学名誉教授) 上田閑照

\* 仏教かキリスト教かの短絡的な二者択一でない普遍的な地平

を「人間」という事実から探ろうとする、真摯な魂の軌跡。第二ヴァチカン公会議の精神とも符合する。

(跣足カルメル会上野毛修道院院長) 九里 彰

国文社 定価 (本体 2400 円 + 税)



# 奥村一郎選集

Okumura Ichiro

全9巻

2007年3月刊行開始

オリエンツ宗教研究所

定価各2,100円

(本体2,000円)

四六判・上製・平均240頁

深い信仰と豊かな霊性、

そして透徹した知性が織り成す

奥村神学の全貌。

祈りと思案の日々はときに私を新たな地平へと導く。カトリック修道者となつてなお続く禅との関わりや宗教対話の積み重ねが、やがて「関係の神学」として結実したことはその一つである。自己形成や修徳主義を基軸とする「個の霊性」の行き詰まりの中で、福音の原点である相互愛に基づく「関係の霊性」は日本文化とキリスト教など、その後の私の問題関心を深めてくれた。——著者による「刊行にあたって」より

奥村一郎 Okumura Ichiro・カルメル会司祭

1923年生まれ。旧制高校時代より『正法眼蔵』に親しみ、中川宋淵老師に師事する。東京大学法学部、同大学文学部卒業後、カルメル会入会のため渡仏。帰国後は京都ノートルダム女子大学教授、聖母女学院短期大学学長、教皇庁諸宗教対話評議会顧問などを歴任。

## 奥村一郎選集 全9巻の構成

第1巻 慈悲と隣人愛

(解説)西村恵信

第2巻 多文化に生きる宗教

(解説)ヤン・ヴァン・ラフト

第3巻 日本の神学を求めて

(解説)小野寺功

第4巻 日本語とキリスト教

(解説)阿部仲麻呂

第5巻 現代人と宗教

(解説)鶴岡賀雄

第6巻 永遠のいのち

(解説)八木誠一

第7巻 カルメルの霊性

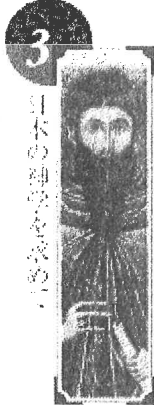
(解説)高園泰子

第8巻 神に向かう〈祈り〉

(解説)高橋重幸

第9巻 奉献の道

(解説)宮本久雄



# 奥村一郎選集

8月刊行

第三巻 日本の神学を求めて

《日本の神学・・根源への問い／相互愛／  
「信ずる」と「愛する」／新しい掟》

解説；小野寺 功



9月刊行

第六巻 永遠の命 解説；八木誠一

《嬰兒復帰／人間の栄光と悲惨／死を見つめる／  
十字架の秘義／人間と世界と神》

12月刊行 最新刊

第四巻 日本語とキリスト教 解説；阿部仲麻呂

《日本人の心とその精神構造／「ことば」から「みことば」へ／聖書と  
翻訳》



## 投稿募集

テーマ：「キリスト教との最初の出会い」

仏教国である日本において、読者の皆さまがどのようにしてキリスト教に出会ったか、その最初のきっかけ、エピソードなどをB5で2枚前後に簡単にまとめ、送ってください。求道者の方々にも興味深いことと思われま

### 》投稿規程《

- \* 締切り：原則的に毎月10まで
- \* 原稿サイズ：B5 左右の余白20mm
- \* 原稿はできる限り、ワープロかパソコンでお願いします。
- \* E-mailでの投稿は、添付ファイルで、[tokyo@carmel-monastery.jp](mailto:tokyo@carmel-monastery.jp)宛にお願いいたします。
- \* 「心の泉」のコーナーについては小題をつけて。
- \* 「諸所の企画」のコーナーについては、
  - ① 主催するグループ名もしくは個人名を明記。
  - ② 活動内容。例えば、「黙想会」、「祈りの集い」等。
  - ③ 月間、あるいは年間の具体的計画。
  - ④ 連絡先等。
- \* 寄稿連絡は、<sup>くのり</sup>九里 彰神父宛にお願いいたします。

〒158-0093 世田谷区上野毛2-14-25 カルメル会修道院  
Tel(03)3704-2171 Fax(03)3704-1764

『カルメル<sup>くのり</sup>霊性センター』のホームページ

**YAHOOで「カルメル<sup>くのり</sup>霊性センター」を検索してください！！**

ホームページのアドレスは以下の通りです。

<http://www4.ocn.ne.jp/~carmel>



## 『靈性センターニュース』ご希望の方

下記まで、郵送ご希望の月数分×220円を現金で送ってください。(これは郵送料です。)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25 カルメル会上野毛修道院  
「靈性センターニュース事務局」

### 「上野毛靈性センター」への献金のお願い

なお「靈性センターニュース」は現在、上野毛靈性センターで編集、印刷、製本、発送等の仕事しております。ご希望の方へ無料で配付しておりますが、コピー代、紙代、印刷代等、諸経費はすべてカルメル修道会が負担しております。読者のみなさまのご理解とご協力をお願いいたします。

\* 献金される方は、下記の口座へお振込みください。

郵便番号口座：00110-4-297250

加入者名：カルメル靈性センターニュース

通信欄に「靈性センターニュースへの献金」とご記入ください。

\* なお上野毛教会聖堂の祭壇左側の献金口や、信徒会館の「カルメル図書コーナー」の献金口に、直接、献金して下さっても結構です。献金袋は用意されております。



### 編集後記

地球温暖化が大きな問題となっている。すでに南極の広大な地域の氷が海に流れ出しているという。このままの状態温暖化が進めば、多くの大都市が水没することになる。そうなれば、単に海水の問題ではなく、地上に生息している多くの生物が絶滅するであろうし、天候にも異変が起こってくる恐れがある。

もはや私たちは、自国の利益を優先する時代ではなく、地球市民として世界全体の善益、人類全体の福利を優先する時代に入ったと思われる。それは、国家間の問題であると同時に、個々人の考え方や生き方の問題であるとも言える。自分の利益や楽しみだけを追う、悪い意味での個人主義を捨て去る時代が到来したということでもあろう。

二千年前、キリストは自分を捨て他者に仕える姿を、十字架の死を通して身をもって示された。その姿は、人間が歩むべき道を、すなわち人間が本当の意味で人間となってゆく道を、現代の私たちに告げている。パウロの言葉も思い起こされる。

私たち強い者は、強くない人たちの弱さを担うべきであり、自分の満足を求めるべきではありません。私たち一人ひとり、互いにキリスト者としてつくりあげられるのに役立つように、隣人を満足させるべきです。キリストも自分の満足を求められませんでした。(ロマ15:1-3)

